

2025 年度 授業計画(シラバス)

学 科	言語聴覚士学科昼間部		科 目 区 分	専門分野	授業の方法	講義演習
科 目 名	聴覚検査 I		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	15 (1) 時間(単位)
対 象 学 年	2年		学期及び曜時間	前期 木曜3限	教室名	第4校舎301
担 当 教 員	叶 陽子	実務経験とその関連資格	総合病院、クリニックにて言語聴覚療法に従事(成人・小児の聴覚検査等)			
《授業科目における学習内容》						
聴覚機能検査の原理や理論、また検査者としての心構えや注意点を学び、理解を深める。実習を通して検査技術や評価方法を習得する。						
《成績評価の方法と基準》						
期末試験にて60%以上の得点をもって合格とする。						
《使用教材(教科書)及び参考図書》						
教科書「聴覚検査の実際」 配布資料						
《授業外における学習方法》						
予習・復習として教科書や配布資料を読んでおいてください						
《履修に当たっての留意点》						
授業中や予習復習時などに分からない点があれば、そのままにせず質問し解決してください						
授業の方法	内 容			使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容	
第1回	講義形式	授業を通じての到達目標	聴覚検査の基礎知識として、用語や難聴の種類を理解し説明できる	教科書 配布資料 AV機器	テキストの該当箇所を読んでおく	
		各コマにおける授業予定	聴覚検査に関する基礎知識として、耳の構造と機能、難聴について学ぶ			
第2回	講義形式	授業を通じての到達目標	聴覚検査に必要な音の基礎知識を理解し説明できる	教科書 配布資料 AV機器	テキストの該当箇所を読んでおく 前回の復習	
		各コマにおける授業予定	各種聴覚検査に必要とされる音響学について学ぶ			
第3回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	標準純音聴力検査の手順を理解し説明できる	教科書 配布資料 AV機器	テキストの該当箇所を読んでおく 前回の復習	
		各コマにおける授業予定	オーディオメータの使用法、純音聴力検査(気導検査及び骨導検査)の手順・注意点等を学ぶ			
第4回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	検査実習を通して、気導聴力検査を実施できる	教科書 配布資料 検査機器	スムーズに実習がすすめられるよう手順を復習しておく	
		各コマにおける授業予定	気導聴力検査の演習			
第5回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	マスキングについて理解し実施できる	教科書 配布資料 AV機器	テキストの該当箇所を読んでおく 前回の復習	
		各コマにおける授業予定	マスキングの必要性や手順、及び留意点について学ぶ			

授業の方法		内 容		使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容
第6回	講義 演習形式	授業を通じての 到達目標	検査実習を通して、骨導聴力検査を実施できる	教科書 配布資料 検査機器	スムーズに実習がすす められるよう手順を復習 しておく
		各コマに おける 授業予定	骨導聴力検査の演習		
第7回	講義 演習形式	授業を通じての 到達目標	語音聴力検査の手順を理解し、実施できる	教科書 配布資料 AV機器	テキストの該当箇所を読 んでおく 前回の復習
		各コマに おける 授業予定	語音聴力検査の手順・注意点等を学ぶ		
第8回	講義 演習形式	授業を通じての 到達目標	検査実習を通して語音聴力検査を実施できる	教科書 配布資料 検査機器	スムーズに実習がすす められるよう手順を復習 しておく
		各コマに おける 授業予定	語音聴力検査の演習		
第9回		授業を通じての 到達目標			
		各コマに おける 授業予定			
第10回		授業を通じての 到達目標			
		各コマに おける 授業予定			
第11回		授業を通じての 到達目標			
		各コマに おける 授業予定			
第12回		授業を通じての 到達目標			
		各コマに おける 授業予定			
第13回		授業を通じての 到達目標			
		各コマに おける 授業予定			
第14回		授業を通じての 到達目標			
		各コマに おける 授業予定			
第15回		授業を通じての 到達目標			
		各コマに おける 授業予定			